

# 新大広報

2014年  
卒業記念号



No.190

母校で育まれた“絆”はこれからもずっと…

特集1 卒業生・修了生からのメッセージ

## 新たなスタートライン

～過ごした時間を糧に、輝く未来へ～

特集2 退任する教員からのメッセージ

## 情熱と志を次代に継ぐ

～これからの発展と成長を願って～

学長からのメッセージ

卒業後のつながり

～CAMPUS INFORMATION～

新潟大学



## 学長就任のご挨拶



新潟大学長  
高橋 姿  
TAKAHASHI Sugata

この度、下條文武前学長の後任として、平成26年2月1日より第15代新潟大学長に就任しましたので一言ご挨拶を申し上げます。

私は、昭和51年に本学医学部を卒業、以来40年近くにわたって新潟大学の医学部と医歯学総合病院を中心として教育・研究に携わってまいりました。これまで、医学部長、大学院医歯学総合研究科長、医歯学系長など主として医学部の発展に努力してまいりましたが、これからは学長として、新潟大学全体の発展のため粉骨砕身して努めたいと思っています。

総合大学として様々な分野を有する新潟大学の教育や研究を統括し、新たな展開を育ててはなりません。

ん。さらに、本学で学ぶ学生達の可能性を引き出し、本学を巣立った後にも成長することのできる発展性ある人材を育てて社会に送り出すこと、同時に上質なりサーチマインドを備えた研究者を養成することで社会に貢献しなくてはなりません。“自律と創生”という本学の理念を全うしつつ、地域から日本、さらには世界に貢献できる人材を輩出するという、大きな使命を改めて認識し、その重責をひしひしと感じています。

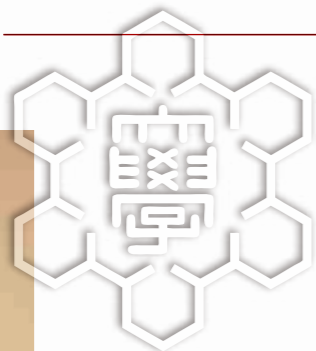
言うまでもなく、大学をとりまく環境は、ますます厳しいものとなっています。社会が要望する人材の育成がより具体的になり、加えて少子化に伴う18歳人口の大幅な減少もあります。大学進学希望者の全入時代も相まって大学間競争の激化、高等教育の質保証、国際競争の激化によるグローバル人材育成、東日本大震災等の自然災害や各種の人的災害が及ぼす危機管理の確立など、これまで予想もしなかった新しい課題が次から次へと押し寄せています。これらのことは単に大学だけでなく、我が国全体が抱える問題であり、乗り越えなくてはならない大きな壁であると言っても過言ではありません。だからこそ、今、大学のあり方が問われ、大学こそが率先してその解決に取り組まなくてはならない時期であると言えます。



新潟大学では、単に学生が選択した専門分野だけでなく、社会に目を向けた広い視野と均整の取れた教養知識の修得にも努め、現代社会を生き抜く確固たる実力、問題解決能力を身につけさせることを目指しています。さらには、専門分野での研究を一層深化させ、時には異分野融合型の新分野の開拓も積極的に進めています。そして生涯学習支援、産学連携、国際交流、医療活動等を通して、地域社会や国際社会の発展に貢献しています。そうした目的の遂行のためには学内資源の効果的な活用が必須ですが、リニューアルされた中央図書館、新たに整備した研究実験棟、広域の地域医療を担うドクターヘリの運航など、ハード面の整備も着々と実施されています。

私は、新たな新潟大学の学長として、これらの先進的な取組を有機的かつ複合的に活用し、本学の理念のとおり世界に貢献できる人材の育成・輩出に努める所存です。そして「教育」・「研究」・「社会貢献」という三本の柱を基本として、地域への対処を忘れることなく、国内に留まらず、国際的視野に立った活動を進める大学として成長させることを目指してまいります。そのためにも、これまで以上に皆様のご指導とご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。

## 退任のご挨拶



新潟大学前学長  
下條文武  
GEJYO Fumitake

私は、平成26年1月末日をもって任期満了により学長を退任いたしました。思えば、この6年間は、国立大学を巡って年ごとに厳しさを増した激動のなかであり、私にとって、息抜く暇もない身の引き締まる毎日でした。これまでの間、多くの皆様からご指導・ご支援をいただきました。浅学非才の私が、新潟大学長の任期を終えることができましたのは、ひとえに理事・副学長、各部長はじめ全教職員の皆様方の絶大なるご支援の賜であり、心よりお礼と感謝の意を表します。

私が学長に就任した6年前は、ちょうど法人化4年目の時でしたので、就任直後の課題は、法人化第一期中期目標・中期計画達成の総仕上げと同時に、第二期の中期目標・中期計画の策定することでした。そこで、私

どもは学内の全部局を訪問し、課題把握に努めました。そして、私は「新潟大学は、①大規模総合大学として、社会の文化・倫理の向上と、自然的・社会的環境の保全に全力を発揮する。②世界トップレベルの特色ある教育研究活動を行うことにより、存在感のある総合大学となる。③中国、韓国、極東ロシア、モンゴルなどの東アジア地域を目前にすえた、この地域に生きる大学としての有意性を有効に生かしながら、教育と研究の拠点大学になる。④日本海側で唯一の政令指定都市・新潟に立地し、地域に生きる大学として、人類の福祉と文化の向上に貢献する有為の人材を育成し、また、地域へのまなざしをもった社会貢献活動を行う。」との4つのビジョンを掲げました。私どもは、このビジョンの実現のため、「新潟大学アクション・プラン2009」を策定し、平成22年からの第2期中期目標・中期計画への具体化を目指しました。

平成23年3月11日に発生した東日本大震災、その後の復興・再生活動の本格化、また、加速する我が国の少子高齢化・グローバル化等を踏まえ、本学が果たすべき大学機能の強化を改めて深く意識し、平成24年に「アクション・プラン2009」の達成状況等の検証を行いました。そして、学長としての総仕上げの2年間の重点的取組事項を中心に「アクション・プラン2012-

2013とし、本学の更なる発展を目指してまいりました。6年間の具体的な取り組みを振り返ってみると、学生の自律的・創造的学習の促進に向けた教育プログラム改革、テニユア・トラック制の導入、URA（リサーチアドミニストレーター）配置、グローバル人材育成推進事業、ダブルホーム制による学生支援など数多くの新たな活動を展開することができました。また、各部署では教育・研究活動の改革に取り組んでいただきました。施設整備も進み、①医歯学総合病院新中央診療棟竣工、②五十嵐キャンパス正門と周辺の整備完成、③旭町あゆみ保育園竣工、④産学地域連携棟竣工、⑤新六花寮竣工、⑥新外来診療棟・ドクターヘリ基地完成、⑦中央図書館増築・改修工事竣工、⑧環境・エネルギー系総合研究棟竣工、⑨既存棟の耐震改修など、両キャンパスの施設は6年間で大きな変貌を遂げました。

また、本学の各事業年度の業務実績に関しては国立大学法人評価委員会において高い評価をいただくことができました。これもひとえに、全教職員一体となつての成果であり、あらためて皆さまに心より御礼申し上げます。

新潟大学は、歴史と伝統のある大規模総合大学であり、最先端の教育・研究に取り組み、優秀な学生を世の中に輩出することは本学に課せられた使命です。今、世の中は急速に変化し、本学をとりまく社会環境が大きく変化しています。この時代の波のなかで求められる本学の役割はますます過大になっておりますが、本学全構成員が力を合わせれば必ずや困難も打破でき、明るい未来があると確信しています。

最後に、高橋姿新学長のもとで、新潟大学が更なる発展と飛躍を遂げるよう祈念して、私の退任の挨拶とさせていただきます。





# 特集1

卒業生・修了生からのメッセージ

# 新たなスタートライン

～過ごした時間を糧に、輝く未来へ～

卒業生・修了生のみなさん、新潟大学で過ごした日々はどんなものだったでしょうか？  
楽しかったこと。うれしかったこと。大変だったこと。  
一番の思い出は？ みなさんの大学生生活を思い出してみてください。

## Q1 学生生活で大変だったけど乗り越えたこと

人文学部 人文学科 SATO Risa 佐藤 里紗

学生生活を送るうえで、一番苦労したことは「就職活動」です。私は三年生の春休みに東京のドミトリーハウスに泊まり込み、集中して活動を行いました。ドミトリーハウスとは相部屋宿泊施設のようなもので、国籍や年齢を問わず様々な人が利用します。慣れない環境に身を置き、ドミトリーハウスで友人作りをするうちに、見失いがちな「自分らしさ」や「やりたいこと」を見つけることができました。

教育学部 学校教員養成課程 MIYAKOSHI Toshihiro 宮越 俊宏

大学生活において、大変だったことはたくさんありましたが、その中でもやはり教育実習が一番大変だったと思います。次の日の授業のために、寝ずに授業を考え、一日一日を臨んでいました。何度も心が折れそうになったこともありましたが、たくさん準備した授業であればあるほど、子どもの表情は生き生きし、積極的に授業に取り組んでくれました。頑張った分だけ、子どもたちが一生懸命取り組もうとしてくれて、自分にとってとても励みになりました。

法学部 法学科 TAN Nanako 丹 菜々子

専門科目の勉強が大変でした。1年次にはアルバイトやサークルばかりで、いい加減な勉強しかしなかった結果、単位を何個も落としました。これでは卒業できないと思い勉強にも力を入れるようになると、不思議と、ストイックに勉強に励む他の学生や社会人の方と知り合うことが増え、その方たちの刺激を受けながら、学部勉強を楽しめるようになりました。入学前に抱いていた「法学を勉強したい」という思いを取り戻すことができてよかったです。

経済学部 経営学科 TANAKA Yuki 田中 悠輝

私は福岡県出身で新潟大学に入学した当時、友達はおろか知り合いさえ1人もいませんでした。その時は孤独でとても苦しかったです。しかし、誰も友達がなかったからこそ積極的に自分から声をかけ、同じ学部だけではなく他学部の友達もたくさん作ることができました。また、福岡県出身という珍しさが友達の輪を広げるための武器にもなりました。まさにピンチだと思っていた状況をチャンスに変えることができたのだと思います。



理学部 生物学科 NOBE Ryo 野部 遼

私は、アカペラサークルの代表として学祭で歌うことを目指し練習しました。音楽が嫌いになるほど練習しましたが、その努力が実り、代表としてステージに立つことができました。その時の景色、感動は今でも忘れられません。何かを全力で挑戦した先には素晴らしい景色が待っていることを知り、その後は海外への一人旅や実家がある埼玉まで自転車で帰省する等、様々なことに挑戦しています。また新しい感動に出会えることを期待して。

医学部 医学科 SHIMOMURA Akira 下村 暁

四年生の時、医学基礎研究のカリキュラムを利用してデンマークで実習を行いました。慣れない海外での生活、言葉の壁にぶつかりながらも、研究室の教授の力を借りながら英語での発表をすることができました。この経験は部活やバイトだけをして大学生活を過ごしてきた、今までの自分の世界を広げてくれた気がします。広い視野を持ち、様々な人間や文化に触れることで人間的にも非常に成長できました。

医学部 保健学科 看護学専攻 UNO Misaki 宇納 美咲

実習、サークル、短期留学など本当に多くの経験をした大学生活。その中で私は人とのつながりの素晴らしさを強く感じました。実習中は寝不足の毎日で上手くいかず泣いた時もありましたが、どうしたら患者さんのお手伝いができるか一生懸命考え、その方の良さや自分の考え方などに気づくことができました。また、一緒に励まし合ったり応援してくれたりした友達や先輩・後輩、先生の存在はとても大きく、皆さんに出会えたことが大学生活で本当に大切な宝物となっています。

歯学部 歯学科 SUNADA Yukako 砂田 悠香子

私にとって学生生活で大変だったことは、臨床実習でした。実習が得意でなく、自分でスケジュールを立てることも苦手でもいつも手一杯でしたが、患者様に優しく声をかけていただいたり、先生方にアドバイスをいただいたり、同級生に話を聞いてもらったりしてなんとか臨床実習を終えることができました。うまくいかないことも沢山ありましたが、周りの方々に支えていただきながら、大変充実した日々を送ることができたと思います。

工学部 建設学科 TAKEISHI Kazuki 竹石 一喜

学生生活で大変だったが乗り越えたことは、3年時の社会基盤プロジェクトマネジメントというグループワークで行う講義です。一つの橋梁の建設計画から供用までのシミュレーションをする、社会基盤工学コースの総まとめと言える内容で、次々と課せられる課題の難易度は高く、作業量も膨大でしたが、グループのメンバーと協力し、話し合いを進めて行くことで最後まで乗り越えられ、また仲間と協力する大切さも改めて実感出来ました。

農学部 応用生物化学科 NAKAZAWA Daiki 中沢 太貴

私は食べるのが好きで、食について深く学びたいと思い、本学に入学しました。祖母の入院がきっかけで、介護食に興味を持つようになり、藤村准教授の下で「介護食とおいしさ」の研究に取り組みました。研究室で初めて立ち上げる実験系であったため、右も左も分からず、失敗を繰り返しましたが、最終的に実験系の確立に大きな一歩を踏み出すことができました。この結果は介護食研究の基礎として役立てられると思います。この経験から、諦めないで困難を乗り越える姿勢を学ぶことが出来ました。





# Q1 学生生活で大変だったけど乗り越えたこと

大学院 教育学研究科 MIYAZAWA Takako 宮澤 孝子

“文系の大学院生”という、周囲から遊びの延長だと捉えられてしまうことが、正直この2年間で最も辛いことでした。ですが、学会や調査で出会った方々からの励ましの言葉、サイエンスセミナーでの中高生との出会い、研究のために集めた大量の資料や文献、そしてここで学んだことが、そんな辛さを忘れさせてくれました。ここまで院生生活に没頭できたのも、「社会をより良く変えるために自分の研究にどんな意義があるのか」という視点を先生方が与えてくれたからだと思っています。



大学院 保健学研究科(博士前期課程) IWABUCHI Minami 岩淵 南

大学院の最初の1年はただ目の前の事をこなすだけで精一杯だった。初めは何をするにも時間がかかり、1つの実験を終えるまで1日ばかりということもあった。実験を何度も繰り返し、指示に従って進めていく内に、複雑に感じていた操作にも慣れ、やがて自分で考えて進めていけるようになった。この2年間で出した結果を一つの研究としてまとめられたことが何より嬉しく、先生方や研究室のメンバー、卒研生の皆さんに深く感謝したい。



大学院 自然科学研究科(博士後期課程) HONGO Kunihiko 本合 邦彦

「小にして学べば則ち壯にして為すこと有り、壯にして学べば則ち老いて衰えず、老いて学べば則ち死しても朽ちず」。経営を退き母校に非常勤講師として招かれ、某教授の「余裕時間を利用して研究集大成もいかが」と誘われた時思わずこの言葉を思い出した。若き研究時代と重なり専門外のテーマに挑戦する羽目に。実験を学生から教わりながら社会に役立つ実用化研究を楽しく研究生と協業出来た事は、充実した人生の一時であった。



大学院 医歯学総合研究科(修士課程) WADA Eri 和田 恵梨

わたしは自分の意見を伝えることが苦手です。しかし、研究は自分が感じたことと、先生方の意見を混ぜ合わせることによって次のステップが見えてくるものです。考えていることを整理し、丁寧に伝えることは自分にとって難しく、更に勇気の要ることでありましたが、この2年で最も成長したことのひとつと感じております。未熟なわたしを温かくご指導して下さった先生方、支えてくれた友人、家族に深謝いたします。



大学院 技術経営研究科 SAKAI Kazuaki 酒井 和明

経済学部と技術経営研究科で社会人として夜間7年間学びました。無我夢中でしたね。すっかり錆付いた数学や英語を思い出すことから始めましたので大変でした。期末試験が近づく朝から夕方まで弁当持参で地域の図書館に通って勉強していると職員の方から「今日は何の勉強ですか?」「いつも頑張っていますね。」と声をかけていただくこともありました。いつも夢中でしたので、いつの間にか大変なことも乗り越えていました。



# 決 意 表 明

さあ!! 旅立ちの時。  
この決意表明を胸に、  
新しい世界へ羽ばたいてください。

人文学部 人文学科 佐藤 里紗

私は今後、ソーシャルゲームの企画開発を行う会社に就職します。四年間の大学生活で育んだ知識や分析法を活かしながら、自分の「やりたいこと」を真に見極め、常に向上していきます。

教育学部 学校教員養成課程 宮越 俊宏

今年の四月から、新潟県で小学校の一教員として教壇に立つことになります。子どもの成長に携われる立場として、自分の仕事に誇りをもって取り組んでいきたいです。また、一日一日を大切に、子どもとともに成長できるような教師を目指します。

法学部 法学科 丹 菜々子

私は運よく自分の志望した場所で働かせていただけることとなりました。社会人として過ごす中でつらいことや悩むこともあると思いますが、初心を忘れず、前向きに努力していきたいと思っています。

経済学部 経営学科 田中 悠輝

これから社会で生活していく中で、新潟大学卒という肩書は一生背負っていくものです。その肩書に恥じないように、仕事を通して社会に何らかの形で貢献できる人間になります。

理学部 生物学科 野部 遼

4月から念願であった社会人の仲間入りをすることで、スーツのボタンが弾け飛ぶほどに胸を膨らませています。社会人になっても挑戦する姿勢は崩さず、次は自分の手で感動をつくり、多くの人に与えていきます。

医学部 医学科 下村 暁

新潟での学生生活で多くの人と出会い、貴重な経験をすることができました。これから社会人としての生活が始まりますが、これからも新潟大学での生活で学んだことを生かして日々精進していきたいと思っています。

医学部 保健学科 看護学専攻 宇納 美咲

これからは大学生活での学びを胸に、社会人として、そして命に接する立場として責任感を持ち、笑顔を大切にしながら日々学んでいきたいです。

歯学部 歯学科 砂田 悠香子

教えていただいた多くのことを糧にして、まだまだ未熟な技術を磨いていくとともに、来ていただいた患者様にちょっと元気に、ちょっと笑顔になっていただけるような歯科医師になれるよう、努力していきたいと思っています。

工学部 建設学科 竹石 一喜

これからは、ここまで育ててくれた両親、支えて下さった周りの方々への感謝の気持ちを忘れずに、社会人として、また一人の大人としての自覚を持ち、仕事、私生活の両方で自立した行動を心がけて行きたいと思っています。

農学部 応用生物化学科 中沢 太貴

私には、「世界の食の発展に貢献する」という夢があります。4月からはサポロビールの一員として、夢の第一歩を踏み出します。本学で培った諦めない姿勢を貫き、社会に貢献して参りたいと思っています。

大学院 教育学研究科 宮澤 孝子

修業して社会に出ても、いつか博士課程に進んで研究を続けるにしても、この自由な空気の中で培った理論と、多くの人との出会いを忘れずに生きていきたいです。6年間、ありがとうございました。

大学院 保健学研究科(博士前期課程) 岩淵 南

私はこの春から病院に勤務し、臨床検査技師として働くことになる。大学院での経験を通して得た物事の見方や考え方を活かしながら、検査の技術と知識を深め、検査のエキスパートとして医療に貢献していきたい。

大学院 自然科学研究科(博士後期課程) 本合 邦彦

光を扱う研究テーマの究極は、量子論など全ての理論が成立しない10<sup>-33</sup>cm(プランク・スケール)より小さい「暗在系」の世界を極める事であり、現実世界(明在系)との関係を明らかにする事が究極の自然科学である。

大学院 医歯学総合研究科(修士課程) 和田 恵梨

研究を行う上で大切にしていたことは、自分の好奇心や興味に対して目を背けず、根気強く探求することでした。今後も疑問や興味に対し誠実に向き合い、新しい世界を切り開いていきたいと思っています。

大学院 技術経営研究科 酒井 和明

大学で学ぶ為、たくさんの方々を支えていただきました。皆様ありがとうございました。わたしの決意は、「学びを活かすこと」、「学び続けること」、「学ぶことができたことの感謝を忘れないこと」です。



## Q2 新潟大学のココが好き!



人文学部 人文学科

YAMAZAKI Seiko  
**山崎 聖子**

総合大学だからこそ授業や部活などを通して多くの他学部の人たちと出会うことができます。大学生活4年間で多くの魅力ある先生方、先輩、友人、後輩たちと出会いました。これによって今までとは異なる様々な物事の考え方や捉え方ができるようになったと感じます。そしてこの出会いは私にとって大きな財産です。このように多くの魅力ある人に出会えること、そしてその出会いが自身の財産となることが新潟大学の好きな点です。

教育学部 芸術環境創造課程

MURAKAMI Naoki  
**村上 直樹**

新大の好きなところは数多くありますが、なんと言っても4年間生活した五十嵐キャンパス内に溢れる自然でしょう。教育学部から工学部にかけての並木道、音楽棟の西窓から望む日本海、人文社会棟と農学部棟の裏に続く落ち葉の道など、歩かたび眺めるたびに、繊細な、四季の移ろいを感じることができます。一瞬一瞬の感動はその時にしか体験出来ませんが、感動の記憶は長い間残ります。この木々と海に囲まれ過ごしてきた私の4年間で、その中に刻まれています。

法学部 法学科

AKUTSU Suguru  
**安久津 優**

新潟大学の在学を通して、数えきれない程たくさんの方々にお世話になりました。人生でたった数年間しかない大学生活において素晴らしい出会いに恵まれたことに感謝しています。大学の規模もさることながら、大学を中心とした周辺の町全体が我々に住みやすい環境を提供してくれることが最大の魅力であり、我々の活力の源であると思います。新潟大学は私の人生に彩りを与えてくれる存在でした。

経済学部 経営学科

SAITO Rie  
**齋藤 理恵**

新潟大学は総合大学であるため、他の学部と関わる機会が多く、様々な人と出会うことが出来ます。私は、基礎スキー部に所属し、違う学部の学生・留学生達と出会い、部の活動を通じて部員同士の絆を深めることができました。また、ゼミの活動でも素晴らしい先生や学生と出会い、充実した大学生活を送ることができました。これらの出会いは私の財産になりました。そんな出会いをくれた新潟大学が私は好きです。



理学部 化学科

SHOJI Ryota  
**東海林 良太**

新潟大学の魅力といえばやはりその広大な敷地ではないでしょうか。医学部以外の全学部がこの五十嵐キャンパスに集中しており、その外周は3kmで、ランニングコースとしても利用できます。まさに迷子になるほど広く移動だけでも一苦労します。1年生のころはよく迷子になっていましたし、正直今でも時々迷子になりかけます。移動するだけでも大変で、時には迷うこともある。そんな苦労を味わえるところも新潟大学の一つの魅力かと思います。



医学部 医学科

TAKEUCHI Yuki  
**竹内 裕貴**

僕が新潟大学の好きな点は、広大なキャンパスと豊かな自然環境に恵まれ、その中で不自由なく大学生活をおくることができたことにあります。新潟にはお米や日本海の美味しい魚介類、地酒、温泉、少し遠出すればスキー場もあり、友達とたくさんの思い出を作ることができました。また、僕たち医学部のキャンパスは教室も新しく、すぐそばには附属図書館も併設され、学びの場としても最適な環境で思い出に残る6年間の大学生活をおくることができました。



医学部 保健学科 放射線技術科学専攻

HASHIMOTO Mayu  
**橋本 茉由**

新潟大学には様々な学部の学生が集まり地域活動を行う、ダブルホームという独自の取り組みがあります。私はその活動の中の1つである、新潟平野の休耕田を利用した湿地再生を行ってきました。専門分野が全く違う学生とのミーティングや地域の方との交流、現地での地域活動など、自分の学部に閉じこもってはいられない経験をたくさんすることができました。ダブルホームに出会い、自分の視野を広げることができて本当によかったです。

歯学部 歯学科

OKAWA Junpei  
**大川 純平**

6年間の学生生活はとても長いものになるかと思いましたが、気が付けばあっという間の卒業となりました。これも楽しい学生生活に恵まれたからだと感じます。さて、新潟には素敵なものがたくさんあります。海や温泉、山にスキー場、また美味しいお米や海産物、お酒など挙げればきりがありません。新潟大学の魅力は出会えた素敵な友人や先生方と交流できる素晴らしい環境が充実していることであり、その新潟大学も素敵なものの1つだと私は思います。

工学部 機械システム工学科

KOMIYAMA Kazuki  
**小宮山 和希**

新潟大学は海外の大学との交流が深く、留学を経験できる機会が多いです。私も授業の一環として、ドイツのマグデブルグ大学への短期留学を経験しました。マグデブルグ大学の職員や学生とビールを飲みながら話したり、ホームステイ先の家族と楽しく食事や観光をしたりと多くの思い出を作ることができ、私にとって一生の財産となりました。このような楽しい経験ができ、多くの人と交流ができることが新潟大学の魅力だと思います。

農学部 農業生産科学科

SEKIGUCHI Nagisa  
**関口 渚**

新潟大学の好きなところは、温かい人がたくさんいるところです。どんなに忙しくても相談に乗ってくれる先生方、喧嘩しても仲直りできる友達、実験がうまくいかなくても見捨てずにいてくれる先輩、様々な人と関わる機会を与えてくれた新潟大学に感謝します。同じ学科はもちろん他学部の人と関わる機会が多いことも新潟大学の魅力だと思います。自分とは違う価値観の人がたくさんいることを知って、少し大人になれました。充実した4年間を送ることができて良かったです。

大学院 教育学研究科

WAIZUMI Taku  
**和泉 拓**

私は新潟大学に入学して6年間ピアノを専門に音楽を学び、昨年度には数ヶ月間、念願であったヨーロッパで勉強するという夢を叶えることが出来ました。その夢が叶ったのはこの新潟大学で音楽を学べたからです。親身に指導して下さった先生方、集中して練習出来る環境の完備、そして切磋琢磨し合えた仲間が存在が私を成長させてくれました。新潟大学という地で学べたことを誇りに思い、感謝しています。



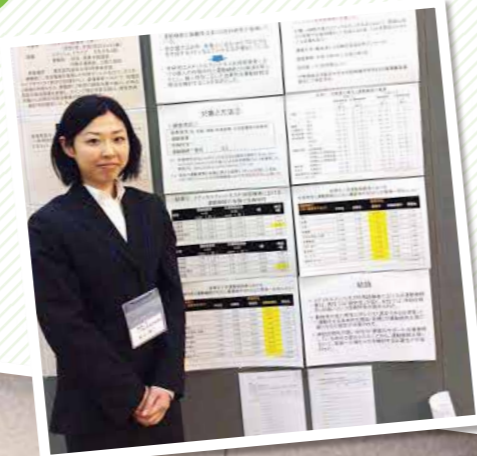


## 02 新潟大学のココが好き!

大学院 保健学研究科 (博士前期課程)

TSUKADA Yuuko  
塚田 優子

本研究科では、新潟大学の教育プロジェクト支援事業に基づき今年度から新たに研究奨励金の交付が始まりました。私は奨励金に応募することで研究者に必要な「自分の研究を他者に説明し、審査を受けて研究資金を獲得する」という一連のプロセスを経験でき、自分の研究の意義を客観的に捉える良い機会にもなりました。研究方法だけでなくこのようなスキルを学ぶことができるのは本学の特徴であり魅力だと思います。



大学院 現代社会文化研究科 (博士前期課程)

TAI Wenchang  
戴 彤彰

いつも新しい面白さが発見できるところです。大学のスタディツアーに参加して視野を広げられたり、熱心な先生方のおかげで学問の楽しさを知ったり、さまざまな国々からの留学生と友達になったり、夏は仲間と一緒に大学の近くの海で遊んだりして、学部生から大学院博士前期まで、退屈な大学生活だと思ったことは一度もありません。あっという間に六年間が過ぎ、とても充実した留学生活でした。新潟大学に来てラッキーでした。



大学院 自然科学研究科 (博士前期課程)

ITAYA Sachimi  
板谷 紗智美

夢中になれることが見つかる場所です。学部生の時は部活動に所属しており、出身も専攻も違う人たちと同じ目標に向かって切磋琢磨した経験や、同期や先輩・後輩とのつながりは、私にとって大きな財産となりました。大学院に進学してからは研究の日々で正直辛い事も多かったですが、ご教授くださった先生方や研究室の方々のおかげで、自分が抱く「なぜ」を追求できたことにとても感謝しています。



大学院 医歯学総合研究科 (博士課程)

SUZUKI Tsubasa  
鈴木 翼

「チャレンジできる環境」と「人のつながり」です。先生方の指導や先輩・同僚の協力の下で、学生でありながら責任のある仕事をさせてもらったり、震災被災地の線量測定活動に参加したりとあらゆることにチャレンジでき、それらの全てを「学び」につなげられる環境が新潟大学にはあると感じます。総合大学という特色を活かして他学部の先生方と協働する経験もできました。土地柄、美味しい食べ物やお酒を楽しめるのも好きなおところです(笑)



大学院 技術経営研究科

ISHIZAWA Takanori  
石澤 崇政

新潟大学では、自分と違う考えを持った方達と触れ合うことができました。私の所属していた技術経営研究科は社会人の方が多く所属しています。年齢や職業の違う方達との講義や議論は、自分が持っていない視点や考え方に触れることができる、貴重な体験でした。

また、MOT自習室は、個人的な学習だけでなく、グループ学習、自主的な研究の発表、NPO設立の準備などの交流をした、私の思い出の場所になっています。



# 決 意 表 明

人文学部 人文学科

山崎 聖子

ここまで多くの人たちとの出会いやその支えによって今の私があります。これからも新しい出会いを大切に、そしてこれまでの支えに感謝しながら、4月から精一杯仕事に取り組みたいと思います。



教育学部 芸術環境創造課程

村上 直樹

私は卒業に伴い新潟を離れ、故郷の福島に帰り教壇に立ちます。授業はもちろん、合唱や吹奏楽の指導にもあたります。新大で学んだことを礎に、子どもたちに音楽の素晴らしさを伝え、日本の音楽文化の普及・発展に貢献していきたいです。



法学部 法学科

安久津 優

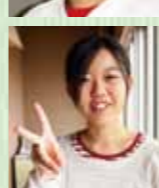
これからは学生生活よりはるかに長い社会人生が待っています。焦らず、着実に実績を積み重ねたいです! 全てを完璧にこなすことはできません。小さなことでへこたれず、常に前を向いて生きていきたいです!



経済学部 経営学科

齋藤 理恵

家族や先生、友人など、多くの方々を支えられながら大学4年間を無事に過ごすことができました。卒業後は社会人として、新潟大学で学んだことを活かし、地元のために精一杯働きたいです。



理学部 化学科

東海林 良太

ずっと苦手意識をもっていたプログラミングに挑戦したいです。本当に基礎の基礎からの勉強になりますが、優秀で頼れる先輩方の力をお借りして頑張りたいと思います。



医学部 医学科

竹内 裕貴

僕は今春より地元の愛知県にて働くことになりました。6年間過ごした新潟から離れることは大変寂しいのですが、自分が新潟大学に入学したことで出会うことのできた人への感謝の気持ちを決して忘れず、優しさとおたかみのある医師になりたいです。



医学部 保健学科 放射線技術科学専攻

橋本 菜由

これから私は新潟県内で診療放射線技師として働きます。転勤があり様々な病院で働くこととなりますが、大学生活で学んだことを活かし、それぞれの地域のニーズに応じた医療を提供できるよう頑張っていきたいです。



歯学部 歯学科

大川 純平

最後の1年間にはさまざまな患者さんのご厚意と先生方のご鞭撻により、有意義な経験を得る事ができました。多くの方々のお力により今の自分がある事を心に留め、慢心せず信頼されるような歯科医師になりたいと思います。



工学部 機械システム工学科

小宮山 和希

春からは新潟大学大学院へ進学します。大学院まで進学をさせてくれた両親に感謝し、自身の研究を頑張りたいと思います。そして様々なことを学び経験して、新潟大学の名に恥じないような社会人になりたいです。



農学部 農業生産科学科

関口 渚

4月から社会人になりますが、自分のしている仕事の意味を見失わずに1つ1つの仕事に全力で取り組んでいきたいです。人との関わりを大切にしながら社会人としての役目を果たしていきたいです。



大学院 教育学研究科

和泉 拓

私は4月から新潟市の中学校で音楽の教員になります。修了を迎え、また新たなスタートです。今まで自分が学んで来た音楽の素晴らしさを子どもたちに伝えていきたいです。



大学院 保健学研究科 (博士前期課程)

塚田 優子

大学院修了後も、在学中に学んだ客観的な視点、多角的な視点を忘れないようにしたいです。また看護師、保健師として勤務する中で、日々の課題に積極的に取り組み、努力を重ねられる人になりたいです。



大学院 現代社会文化研究科 (博士前期課程)

戴 彤彰

新潟大学での六年間、たくさんのことを学び、たくさんの知識や教養を積んできました。これから「新潟大学出身です!」と誇りを持って、どんな困難に遭ってもどんどん乗り越えていきたいです。



大学院 自然科学研究科 (博士前期課程)

板谷 紗智美

春から専攻とは異なる業種へ就職します。新たな事に挑戦しようと思えたのは、充実した学生生活があったからこそです。新潟大学の一員としての自覚を忘れず邁進し、お世話になった方々に恩返しをしていきたいです。



大学院 医歯学総合研究科 (博士課程)

鈴木 翼

卒業後は新潟大学病院のスタッフとして、地域医療に携わる学生や医療者の育成にあたります。新潟の豊かなフィールドを活かして、自らも地域社会に根差し、幅広い視野を持った医療人を目指します。



大学院 技術経営研究科

石澤 崇政

新潟大学の講義で学んだこと、また、学生生活を通して学んだことを活かし新潟はもちろん、世界に貢献できるように仕事をしたいです。そのためには日々向上心を忘れずに生きていこうと思います。





# Q3 卒業するにあたり、後輩へ一言

人文学部 人文学科

OKAZAKI Kaori  
岡崎 香織

学生時代は時間的な制約も少なく、多くの可能性に満ちています。卒業だけでなくアルバイトや短期留学、就職活動など、様々な経験を通して得た見識とそこでの出会いは、何物にも代え難い私の一生の財産です。振り返れば夢中で駆け抜けた4年間でしたが、主体性と計画性が試された期間だったとも思います。人生で一度きりの学生生活、後輩の皆さんには是非多くのことに挑戦し、充実した日々を送って欲しいと思います。

教育学部 学校教員養成課程

SHIMBO Yuya  
真保 祐弥

大学生活の4年間、いろんな人との出会いがあった。教育実習先の子もたちとの出会いは、私の「教員になる」という気持ちをさらに強くしてくれた。ゼミで出会った仲間とは、共に支え合い、時には互いに刺激し合いながら、成長することができた。この春から、夢であった教員として新たなスタートを切る。今の自分があるのは、こうした出会いがあったからだと思っている。後輩の皆さんにも一つ一つの出会いを大切にしてもらいたい。

法学部 法学科

HOSHI Ryosuke  
星了介

一言後輩に言葉を残すとすれば、「とにかく今しかできないことをやれ」です。私も4年間大学生活を過ごし、今しかできないことをできる限りやったつもりではありますが後悔している点も多々あり、それは誰もが考えていることだと思います。社会人になればできることはかなり限られてくるので、学生時代の後悔を誰よりもしないように尽力して下さい。行動を起こした分だけ自分の糧になることを実感する時がくると思います。

経済学部 経済学科

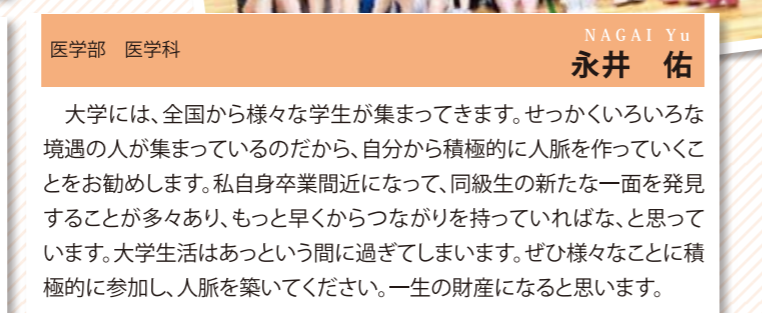
HIURA Juichi  
樋浦 重一

卒業に当たり、時数も限られているので2つだけ。1. 新大生であるという自覚と誇りを持って。我々の一挙手一投足は、全て「新大生」として評価され、新潟大学全体の評価に直結する。2. 粋であれ。新大で4年間過ごしたが、男女関係にしろ、サークル活動、勉学に取り組む姿勢さえ、何もかもが無駄に過ぎる。後輩諸君は、この感覚が理解できないうちは社会に出てはいけないということを心得よ。それでは左様なら。(糸ちご亭越後屋)

理学部 地質科学科

SHIBUYA Masaki  
渋谷 昌樹

なにか熱中できるものがあれば、大学生活はさらに充実し楽しいものになると思います。僕の場合は、ラグビー部での活動でした。チーム全員が高みを目指し、一つになって戦うことは人間的な成長にも繋がり、信頼できる仲間も多くできました。とにかく熱中できるものを一つ探してください。自分を高めたいなら、見つけて熱中してください。研究でも部活動でも。迷ったら、ラグビーしてください(笑)



医学部 医学科

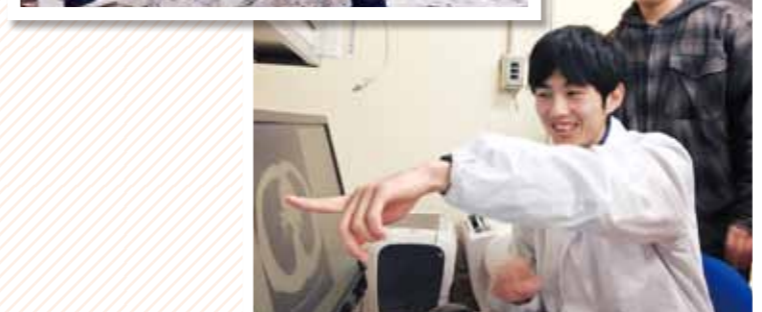
NAGAI Yu  
永井 佑

大学には、全国から様々な学生が集まってきます。せっかくだからいろいろな境遇の人が集まっているのだから、自分から積極的に人脈を作っていくことをお勧めします。私自身卒業間近になって、同級生の新たな一面を発見することが多々あり、もっと早くからつながりを持っていたらな、と思っています。大学生活はあっという間に過ぎてしまいます。ぜひ様々なことに積極的に参加し、人脈を築いてください。一生の財産になると思います。

医学部 保健学科 検査技術科学専攻

MIMURA Natsuko  
三村 奈津子

大学生活では時に辛いこともあると思いますが、その辛いことから何かを得て欲しいということです。私は、勉強につまずいたり、卒業研究時に失敗を重ねてしまったとき、今自分が目指している職業が本当に自分に向いているのだろうかと不安になりました。ですが、病院実習や就職活動を通して自分と向き合い、医療従事者として生きていく覚悟ができました。みなさんも日々多くのことを吸収して、辛いことも自分を成長させてくれると信じて、頑張ってください。



歯学部 歯学科

HANASHIRO Hikari  
花城 ひかり

大学生活はあっという間に過ぎます。何か目標がある人は、それに向かって日々邁進して下さい。1日1日を大切に過ごせば、大学生活はとても有意義なものになると思います。6年間終えて思うことは、「学生時代に自分はこれを頑張った!」と言えるものがあるといいということです。ですから、今目標が無い人は部活、サークル、何でもいいので何かに参加してみてください。人間関係や自分の価値観などを含め、世界がパッと開けると思います。

工学部 機能材料工学科

MIURA Takanori  
三浦 敬典

新潟大学での4年間は私にとって様々な出会いと経験の日々でした。大学では高校時代とは違う友達とのつながりを作ることができ、友達とのつながりを通して色々な考え方や価値観に触れ、触発される、ということも少なくありませんでした。また、研究室活動や学部の勉強においては、専門内容を理解しなくてはなりません。理解に苦しむような問題に直面した時、一人ぼっちで悩むだけでなく、友達とのつながりを活かし、互いに助け合うこともありました。私生活においても友達とは、同じ趣味を楽しんだり、遠出をしたりと大学生活の彩りを語るには欠かせない存在であります。私は新潟大学大学院への進学が決まっています。大学院では、専門知識を深めるだけではなく、社会人として常識とされる基本的な能力を身につけたいと思っています。

農学部 生産環境科学科

OHIRA Keisuke  
大平 敬典

友達だけでなく、様々な立場・分野の方との会話の場を持つといいと思います。なかでも、教授との会話は大切にしたい方だと思います。今後の人生で大学教授と話す機会は、ほとんど無いと思います。大学教授はその分野のプロフェッショナルです。もちろん、教授と会話をする機会は少なく、緊張もすると思うので、ただ楽しい会話とはいきません。でも、言葉の選び方や考え方、その一つ一つの所作に学ぶことは多く、たとえ進路が違う分野であっても、決して無駄にはならないと思います。

大学院 教育学研究科

NITTA Ryouki  
新田 亮揮

新潟大学の後輩の皆さんに言えることは「人生楽しんで勝ち」ということだけです。大学生活を送っていると、人間関係に悩んだり、レポートや試験、卒業論文で苦しい時期もあっという間に過ぎます。しかし、下ばかり向いて暗い顔をしていても何も始まりません。そういう時こそ上を向いて素敵な笑顔振りまいていきましょう。何事も楽しむことで、新たな視野が広がっていくものです。残りの大学生活を華やかに謳歌してください。

大学院 保健学研究科(博士前期課程)

KOBAYASHI Hajime  
小林 元

私は大学院保健学研究科に新規開設された医学物理コースの第一期生です。本コースでは、五十嵐キャンパスでの講義を聴講する必要があり旭町⇄五十嵐で大変で、さらに大学病院で週2日の医学物理実習があり早朝⇄夜と超大変でした。そのため大学院での研究が進まず指導教員に怒られたりもしましたが(汗)，充実した楽しい日々でした。これから医学物理コースを目指す人は、そのあたりを覚悟しましょう!



# Q3 卒業するにあたり、後輩へ一言

大学院 現代社会文化研究科(博士後期課程)

KAMIJIMA Kei  
**上島 慶**

私は、新潟大学に学部と大学院を合わせて9年間在籍しました。学部時代は、卓球部に所属し、競技に没頭しました。大学院時代は、卓球競技の研究を行うと共に、現場で指導法を学びました。1つの物事に多方面から関わることで、その物事に対する興味関心がさらに増しました。後輩の皆さんには、興味の有無に関わらず、何事にも目的意識をもって取り組んでほしいです。そして、自分にしかできないものに出会えることを期待しています。

大学院 自然科学研究科(博士前期課程)

AOYAMA Yuuji  
**青山 悠司**

学部4年生からの3年間は、「楽しみきる」これに尽きると思います。研究では細かな作業が多く、不器用だったため準備が大変でした。しかし周囲の協力を得てここまでやってこれました。ひとつ測定をやり終えると満足感も得られるなど、とても充実した日々を送れたと思います。修了にあたって、もっとこの研究室で研究がしたいと名残惜しい気持ちで一杯です。大学院にいる時間は長いようで短いです。得るものは友情だけでなく自身の成長もあります。一日一日を大切に。

大学院 歯学総合研究科(博士後期課程)

TOSAKA Yuki  
**登坂 友貴**

私は博士後期課程に入学すると同時に、社会人として仕事を始めました。同じ年に結婚もしたので、「学生」、「社会人」、「主婦」という3つの役割をこなしながらの毎日でした。

最終学年には転職し、新しい仕事を覚えながら論文の準備をすることは、想像以上に大変でした。小児歯科学分野の先生方や、学科の先生方の励ましがあったから、今日を迎えられていると思っております。この場をお借りして、感謝申し上げます。

大学院 実務法学研究科

KOMATA Yukari  
**小俣 由香利**

就職・進学等を控える方は、どの道に進むべきか迷うこともあると思いますが、選択の基準として、最も後悔の少ない道を進むということをお勧めします。今の段階では辛く苦しい道でも、将来後悔がより少ないと考えられるのであれば、その道を選択した方が自分のためになります。

それ以外の方は、たくさんの自由に使える時間があると思いますので、今の時間を大切に、自分が納得できるような時間の使い方をして欲しいと思います。



大学院 技術経営研究科

AIBA Satoshi  
**相羽 智**

私が今回卒業するのは大学院技術経営研究科という専門課程で、同期の方も大学を出た若者から、私のように企業から命を受けてきた者、キャリアアップのために入学された方など様々です。経験も立場も考え方も違う者同士が共通の問題について語り合い、解決を目指すのは非常に刺激を受ける体験でした。目的がなんであれ、これからあらためて大学で学ぼうとする方にはこの機会に視野を広げ社会に対して問題意識を持って頂きたいですね。

# 決 意 表 明

人文学部 人文学科

岡崎 香織



春からは地元で公務員としての生活が始まります。新潟を去ることは寂しくもありますが、新しい環境でも新潟大学での学びと経験を糧に、常に広い視野を持って、社会に貢献できるよう努力していきたいと思っています。

教育学部 学校教員養成課程

真保 祐弥



教員は私の夢であった。その夢を叶え、4月から教壇に立つ。最初は、とても苦労するだろう。それでも、私は子どもたちのために一つ一つ進歩していく。そして30年、40年経っても、この気持ちを忘れずにいたい。

法学部 法学科

星 了介



今まで学生という周囲の環境に守られていた立場から、一人の責任ある社会人となるにあたり、大学までの学生時代に培った知識や経験を活かし、どんな逆境にも打ち勝ちたいと思います。

経済学部 経済学科

樋浦 重一



僕は近い将来、電車を運転することになる。新大を出て運ちゃんかよ、と思うなかれ。僕は将来、必ずや日本一の鉄道員となり、新大の誇りとなって見せる。あと、できれば「えちごトキめき鉄道」に乗りに来てほしい。

理学部 地質科学科

渋谷 昌樹



この新潟という自分の生まれ育った環境に恩返しできるような人間に成長していきたいです。どんな困難もこれまでの経験を活かして打破し、楽しい自立した人生を送っていきます！

医学部 医学科

永井 佑



今までの人生、友人、先生方、そして家族と、たくさんの人に支えてもらいました。支えてくれた皆さんに胸を張れるような、子供たちに笑顔と勇気を与えられるような医師として日々精進していこうと思います。

医学部 保健学科 検査技術科学専攻

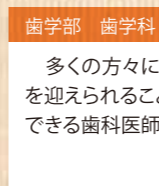
三村 奈津子



この4年間で学んだことを活かすとともに、今よりもっと物事に積極的に挑戦していけたらと思います。この地で得た思い出を大切に、また、新潟で出会った友人、先生方への感謝の気持ちを忘れず、頑張りたいです。

歯学部 歯学科

花城 ひかり



多くの方々に支えていただきながら6年間の大学生活を終え、無事卒業を迎えられることをたいへん嬉しく思います。皆様のご厚意に報いることのできる歯科医師を目指し、これからも日々努力していきます。

工学部 機能材料工学科

三浦 敬典



大学4年間では、足りないと思っている専門知識の量や、社会人として必要なスキル等を大学院生として過ごす2年間にしっかりと身につけ、有意義な2年間にします。

農学部 生産環境科学科

大平 敬典



大学で学んだ専門知識や経験を活用しながら仕事だけでなく、趣味においても積極的にチャレンジしたいです。一つ分野に固執するのではなく、幅広い知識を蓄積し、物事を広い視野で捉えられる人になりたいです。

大学院 教育学研究科

新田 亮揮



春から、小学校の先生として働きます。あるテレビ番組で見た「縁で、仕事をする」という言葉に感銘を受けました。大学生活で結いだ「縁」とこれから紡がれる「縁」を大切に、これからの社会生活を送っていきます。

大学院 保健学研究科(博士前期課程)

小林 元



現在、英語論文をJournalに投稿中ですが、3月の修了までに受理されるのは厳しい状況です。これから一般病院に就職しますが、論文受理に至るまで、何度も研究室に訪れて最後まであきらめずにがんばります！

大学院 現代社会文化研究科(博士後期課程)

上島 慶



博士後期課程を修了して、ようやくスタートラインに立つことができました。卒業後は、恩師や家族への感謝を胸に、研究者、教育者、指導者それぞれの領域で社会に貢献できるように日々精進していきます。

大学院 自然科学研究科(博士前期課程)

青山 悠司



興味を絶やさないことです。未経験のことであっても臆することなく、興味をもって挑戦していきたいと考えています。社会に出てからも、多くの事を経験し身につけていきたいと考えています。

大学院 歯学総合研究科(博士前期課程)

登坂 友貴



修了後が本当のスタートラインだと思っています。学生生活を支援して下さった恩師や両親、家族への感謝の気持ちを忘れず、地域歯科医療・福祉に貢献出来るよう、今後も努力していきたいです。

大学院 実務法学研究科

小俣 由香利



今は、卒業後に受験する司法試験に合格することが最大の目標です。合格に向けてできる限りの努力をしたいと思います。そして、自分の選択した道は間違っていなかったと胸を張って言えるようにしたいです。

大学院 技術経営研究科

相羽 智



環境問題や地域社会の過疎化などが日頃漠然と興味を抱いているものごとへのアプローチの仕方をここで学べたのが一番の収穫だと思います。興味を突き詰めること、それ自体が日々の力だと信じて挑戦していきたい。



【特集2】

退任する教員からの  
メッセージ

# 情熱と志を次代に継ぐ

～これからの発展と成長を願って～

## 退職のご挨拶



前理事(教育担当)／副学長

生田 孝至

IKUTA Takashi

二期6年にわたり理事・副学長として務めさせていただいた。教育学部長、人文社会教育学系長を含め赴任以来40年もの長きにわたり新潟大学にお世話になりました。私の任務は教育であり、中でも学務部が総力を挙げて取り組んできた主専攻教育プログラムとNBASそしてダブルホームは全国的に高い評価を得ています。前者は副学長の濱口先生が体制を作り質保証の基盤を築き、ダブルホームは副学長の紙谷先生が事業に魂を吹き込み自律と創生の実質化を図ったものです。18歳人口減の問題は大きな課題であり、志願者の確保は本学にとっても重要課題で、教員と事務がペアを組ん

で全国の高校を訪問する独自の事業で全国3位の認知度となったが、これは家後輝雄元部長の発案からでした。中核となる人とそれを支える和の絆が学務部の文化であったと思う。入学から学業・就職まで一貫して対応すべく教育・学生支援機構を設置し、学生あつての大学を目指し教育改革に向けて機構の教職員とともに取り組んできた。私が何とか任務を全うできたのは皆様のお陰で、ただ感謝あるのみです。

今後はグローバルへの対応など新たな課題がありますが、経験と自由な発想でそれを乗り越えていくと信じています。



## 新潟大学を退任するにあたって

前理事(研究担当)/副学長

仙石 正和

SENGOKU Masakazu



長い間、新潟大学にお世話になり、ありがとうございました。感謝あるのみです。

1967年に本学を卒業して、北大の大学院へ進学、北大の教員生活も含めて、11年間札幌で過ごし、1978年から30余年本学でお世話になりました。情報通信、ネットワーク工学の教育研究に係わり、多くの学生さんに出会うことができました。学生さんとの出会いが、今考えてみると宝物です。若い頃は、学生さんとの接触の時間も多くありましたが、後半になると、管理的な仕事が増えて、残念ながら学生さんとの時間が思うようにとれずに、皆さんにご迷惑をお掛けしたと思います。

最近の研究でのイノベーションは、多様性の中から生まれてきているように思います。多様性は、専門分野、国籍、性別、地域などが一様でないことを意味し、そのような種々の人々との交流環境がイノベーションを生んでいます。新潟大学は総合大学で、様々な、しかも多くの人々の集まりです。学生さんも教職員の方々も、その意味では、教育研究の環境に恵まれていると思います。

6年前に、下條学長から、はからずも研究担当理事に指名され、守備範囲は、研究、社会連携、学術情報、国際と広いものでしたが、皆様のご支援を得て全力で活動をしてきました。研究力向上を目指し、文部科学省科学研究費(科研費)の採択増加を目標に、平成22年から右肩上がり続け25年度に採択件数(新規+継続)は700件を越え、全国19位から17位になりました。今では教員数の半数以上が科研費を獲得しています。また、研究に関する競争的大型研究資金も、下條学長を先頭に、テニュアトラック制度、URA制度などに採択され研究大学に必要とされる環境が整いつつあります。さらに下條学長のリーダーシップで悲願の地域イノベーション戦略推進地域の認定を受け、さらに、図書館・研究棟の増築、グローバル人材育成への対応など数々の成果をあげることができました。皆様方のご支援のお陰です。

多くの方々のご支援に心から感謝申し上げますと共に、新潟大学の今後の益々のご発展を祈念申し上げ退任の挨拶とさせていただきます。

## 退任のご挨拶

前理事(財務担当)/副学長

山田 好秋

YAMADA Yoshiaki



長年旭町で過ごしておりましたが、6年前にまず国際担当副学長として、そして直近の2年間は財務担当として五十嵐に通勤するようになりました。この間、色々な学部の先生方と接することができ、私にとって大変な財産となりました。

さて、国際担当を仰せつかったとき、海外からの留学生は300名を切っていました。中期目標に留学生受入拡大を記述することが求められ、私は500名を提案しました。この数字は新潟大学の規模としては少なかったのですが、実現できなければ評価が下がると聞いていたので、この数字に決めていただきました。幸い、昨年11月時点でこの数字をかるうじてクリアしたと聞き及び、ほっとしております。当然私だけで達成できたわけではなく、留学生を獲得するためにアジアの国々を駆けめぐっていただきました先生方ならびに国際課の方々には大変お世

話になりました。この場を借りて御礼申し上げます。

楽しかった国際担当から私の過去からは想像もつかない財務の仕事に変わり、右往左往の毎日でした。ご存じのように運営費交付金は毎年削減されていますが、昨今では円安、電気料金の値上げ、消費税のアップ、等々、歳出削減努力の及ばない要因も重なり、財務環境は悪化しています。このため、役柄とはいえ非常勤講師の削減など、皆様にはこれまでになく歳出削減に向けた議論をお願いすることになり、申し訳なく思っておりました。第3期中期目標期間に向けさらに厳しい状況に陥ると危惧されますが、新潟大学は地方の大規模校の一つであり、危機を乗り越える力は十分蓄えられていると思います。新潟大学の今後の活躍を期待して退任の挨拶とさせていただきます。





## 退任にあたって

今年度で新潟大学を退任することになった。1972年に新潟大学専攻科を修了し、東北大学の大学院を経て、1974年から東北工業大学で2年英語を教え、県立新潟女子短大で4年英文学を講じた後、1980年新大の教養部英語科講師となり、1994年から人文学部で教えることになった。25歳から40年間大学で教えてきたことになる。その間一貫して英語を教える一方で、シェ

人文社会・教育科学系(人文学部)  
教授  
佐々木 充  
SASAKI Michiru

イクスピアやイエイツを中心とした英文学、コミュニケーション論、都市論を主とする空間論、ユング心理学、宮崎アニメなど、様々なことを講じてきた。教養部から大学院まで、接してきた学生が総計何人になるのか、見当も付かない。この人たちの中に私の教えたことが何か残っていることを願うばかりである。



## 新潟大学退任にあたって

新潟大学を退任するにあたりまして、これまでお会いできたすべての教職員・学生の皆様に感謝申し上げますとともに、私事でまことに恐縮ですが、旧教養部の故安藤弘先生の学恩に感謝申し上げます。私の専門は日本文化史でしたが、安藤ゼミにいられたいただき、ホメロスの叙事詩講読を通して古代ギリシア語や文化について学びました。これを契機に古代ギリシアのサテュロ

人文社会・教育科学系(人文学部)  
教授  
荻 美津夫  
OGI Mitsuo

ス劇やミーモス劇と日本の伎楽、ギリシア古典劇(いわゆる悲劇・喜劇)と能楽(能・狂言)との比較など、文化比較の眼を開かせていただきました。さらにペルシア・中国への関心も芽生えましたが、今思うと学生時代の教養の講義にその芽があったようです。現役の学生の皆さんも、教養科目の学びの中から多様な関心を育てておくことを希望します。



## サヨナラ! 新潟大学

私は1991年4月に茨城大学から新潟大学へ赴任して以来、20年余をキャッチコピー風に言えば「編入、楽しんだ、卒業」である。ほどほどの都会、有り余る自然という環境の中、私と関わってくれた学生、同僚の教職員、地域の人々との思い出は、すべて万華鏡のように色とりどりで鮮やかで楽しい。目がチカチカするような交流ができたことは何にも代えがたい宝物であり感謝の言葉もない。この間、国際化、情報化、地域化、学際化と絶え間な

人文社会・教育科学系(法学部)  
教授  
南方 暁  
MINAMIKATA Satoshi

く「化」の時代が到来し、志を同じくする同僚と一緒に波に乗っているつもりがいつのまにか呑まれてしまい、今は「化かされた」のかとも思う。大学教員の役割が教育と研究を通して何かを伝えることだとすれば、大学を去るにあたって、私は何を伝えたのか、また、研究の成果を社会に還元できたのかを立ち止まって省みつつ、今後も新潟大学が高等教育機関であり続けることを心から祈りながら「卒業」。



## 「一日体験入学」

皆さん方のなかには、夏のオープンキャンパスに参加なさった方が大勢いらっしゃると思います。新潟大学を退任するにあたり、昔語りを一つさせてください。あれは1989年11月19日でした。もう25年も前のことになりました。私は経済学部の学務委員長でしたが、受験者の質を高めるにはどうすればいいだろうかと思案するなかで、「一日体験入学」を考えつきました。高校生に経済学部の授業を聞いてもらうことにしたのです。この日はNHKテレビが取材に来てくれましたが、驚いた

人文社会・教育科学系(大学院現代社会文化研究科)  
教授  
藤井 隆至  
FUJII Takashi

ことに全国ニュースとなり、夕方、夜、朝と3回も放映されました。“受験者が大学を選択する時代”の到来を予感させる企画だったからでしょう。それから短期間の間に「一日体験入学」は全国の大学に普及し、今は「オープンキャンパス」と名前をかえて実施されています。毎年8月初旬になると、新潟大学は高校生の姿で埋め尽くされます。それを見るたび、「一日体験入学」立ち上げのときの苦勞を思い出します。私にとっても意義深い「一日」の「体験」でした。



## 若者よ、旅に出よう

私自身の学生時代を振り返ってみると何かと悔いが多いが、その中の一つは余り旅行しなかったことである。勿論金がなかったためであるが、本当の貧乏旅行でよいのだから、金は何とでもなったような気がする。金が多少自由になる頃には時間がなく、金も時間も多少の自由が利くようになる頃には気力と体力が乏しくなってきた。また、何かを青年の目で見るということはその時にしかで

人文社会・教育科学系(大学院実務法学研究科)  
教授  
西野 喜一  
NISHINO Kiichi

きないことで、同じ場所を中年、老年の目で見ても、目に映る光景もそこから得られる印象も、青年のそれとは全く異なっているに違いない。「遊学」という言葉がある通り(これは遊び半分の勉強という意味ではない)、洋の東西を問わず、千年以上前から、勉学とは他郷に旅をすることであった。その足を更に国内各所に、海外に、と向けて欲しい。



## いま大学で学んでほしいこと

2000年から14年間新潟大学で素粒子理論の研究に取り組みながら、学生のみなさんとともに楽しく過ごすことができました。しかし、この間、社会の状況は大きく変化しています。いま、みなさんに望むのは、歴史を学ぶ力です。ノーベル賞受賞の小林さん、益川さんを育てた坂田昌一は、「歴史の忘却」は害悪であると看破していました。これまでの社会の失敗と成功、人の社会の貴重な教訓を学ぶことができなければ再び社会は不幸

自然科学系(理学部)  
教授  
谷本 盛光  
TANIMOTO Morimitsu

になります。これは古代からの戒めでもあります。「過去に目を閉ざす者は結局のところ現在にも盲目となる。」ヴァイツゼッカー元大統領の「荒野の40年」を思い起こします。秘密保護法、積極的平和主義の名のものの軍拡、これらはみなさんの学びの自由と相反するものです。困難な時代を生き抜くため、大学での学びの中から力ある指針を身につけてください。





## 新潟大学を退任するにあたり

自然科学系(理学部)  
教授  
野崎 眞澄  
NOZAKI Masumi

平成7年から19年あまりを過ごした佐渡の理学部附属臨海実験所を去ろうとしています。この間、臨海実験所での教育・研究の標語は「Study nature, not books」と「Nothing in biology makes sense except in the light of evolution」の二つで、臨海実習では、できるだけ現場で生き物を観察することに留意してきました。臨海実験所では、脊椎動物の進化の最初期に出現して

今も生き延びているヌタウナギを材料に「脊椎動物の生殖内分泌系の進化」を研究してきました。一方、それまでの14年間は、京都大学霊長類研究所で「ニホンザルの季節繁殖」に関する研究をしていました。進化の頂点の霊長類から、一転して進化の原点の動物に研究対象を変えたことになり、両方の生物を学んだおかげで、自分なりの生物学を身につけられたと思っています。



## 新大生の皆さんへ

自然科学系(理学部)  
教授  
和田 清俊  
WADA Kiyotoshi

新大生は、どの大学でも教員を悩ませる私語が少なく、熱心に私の講義を聴いてくれました。これは新潟の県民性や新大の伝統によるものでしょう。おかげで、Gコード科目「生物学—植物D—」は14年間気持ちよく講義することができました。全学向けなので、専門性に深入りせず、子どもの頃からの「センス・オブ・ワンダー」を失いかける年頃の学生達が身近な生き物に関心を

持つことから生命と環境への思考を深めるような授業を心がけました。私の授業はもう終わりですが、新大には「大学の森」など自然が豊かに残されています。このような恵まれた環境の中で、皆さんが自然に対する驚きと畏怖の念を忘れない感性を磨かれることを願っています。



## 退職間近の呟き

自然科学系(工学部)  
教授  
大川 秀雄  
OHKAWA Hideo

41年間教員として若き学生諸君と過ごした時間は、長くもあり短くもあり、色々あったが概ね楽しいことが多く、かつ有意義であったと思う。大学を去る者の呟きとして聞いて欲しい。

大学に来ようとした理由はなんだったのか、思い出して欲しい。何か強い目的や目標、思いがあったなら、それを大事にして欲しい。親や先生に言われたから、友達も進学す

るから何となく・・・でもよしとしよう。そうであったのであれば、大学生として何が出来るか、何をすべきか、そして自分も含めて、周りが、社会が、国が、世界がどうなるのか、どうあって欲しいのか、たまには思いを巡らせて欲しい。それを始めるのは、今でしょ。それが出来るのは学生である今しかありません。



## 新潟大学を退任するにあたり、 学生へのメッセージ

自然科学系(工学部)  
教授  
佐々木 修己  
SASAKI Osami

新潟大学大学院を修了後、そのまま新潟大学に勤務しました。その後の40年間の教育研究生活が幕を閉じようとしています。特に、研究生生活は楽しい思い出で一杯です。これは、ひとえに研究室の学生の皆様の支えがあったからです。優れた学生が研究を進展させてくれました。一緒にワクワクしながら実験をやりました。しかし最近、このように学生と感激する状況が少なくなり

ました。若い学生の皆様、夢を持って、夢を常に頭にイメージして、深く物事を考えて、今やるべき事に全力を傾けてください。決して、楽をする方法を考えないでください。そして、世界に目をむけましょう。大学を支える重要な学生皆さんが、教員と一緒に新潟大学の発展に力を尽くしてくれることを願っています。



## 学窓を去るにあたって 医学生に贈る言葉

医歯学系(大学院医歯学総合研究科(医))  
教授  
青柳 豊  
AOYAGI Yutaka

早いもので今春退官を迎え40年以上過ごした本学を去ることとなる。これまでの研究をふりかえてみると、基礎的課題から始まり、多少なりとも医療の現場で役立つ事へと発展させる事が出来たと思っている。

医師としての社会貢献には大きく分けて二つあると考え。一つは実地医家として臨床の現場で患者さんの健康回

復に寄与する事。そして、もう一つは研究を通して病気について新しい事実を見つけ、臨床の現場に役立つ事である。小さな問題でも医学、医療に役立つ事を目指し、社会に貢献出来るように心がける努力が重要である。あっという間に過ぎる時間を有効に活用し、知的好奇心を満たす人生を送って欲しい。



## 退任のあいさつ

医歯学系(大学院医歯学総合研究科(医))  
教授  
高橋 公太  
TAKAHASHI Kota

平成7年、不安と希望を抱きながら新潟大学に赴任しました。母校の新潟大学を卒業すると同時に東京女子医科大学に入局しましたので、教室の先生とは初対面でした。

しかし、教室の皆さんに温かく迎えられ、臨床、研究、学部教育、および大学院生の教育にも力を注ぎました。

平成11年からは臓器提供推進活動に力を注ぎ、その成果が実り、新潟県の臓器提供者数は全国の上位に位置しています。

私のライフ・ワークは、腎移植の中でもABO血液型不適合腎移植ですが、この研究はわが国から胸を張って発信できる臨床研究として育っています。

このように赴任してから19年間楽しく過ごさせていただいたことに関係各位の皆様と学生諸君に心から感謝申し上げます。





## 退任するにあたり、 新潟大学の学生へむけて

医歯学系(大学院医歯学総合研究科(歯))  
教授

野村 修一  
NOMURA Shuichi

私は新潟大学歯学部を卒業して直ちに母校で教員生活を始めたので、学生時代も含めると47年間の永きにわたり新潟大学にお世話になりました。旭町、五十嵐の両キャンパスは大きく様変わりしましたが、学生街が持つ若々しい華やいだ雰囲気は、今も変わらないように感じます。50年近くを健康に暮らせたのも活気ある環境に身を置けたことが幸いしたものと感謝しています。

専門は歯科補綴(ほてつ)学です。超高齢社会を迎えて、歯

を失った高齢者に対して義歯を用いて口腔の形態と機能を回復するための理論と技術に関する研究と診療、そして臨床の立場からの講義と学生と一緒に実践する臨床実習に重点を置いた教育を心掛けてきました。

新潟には四季折々の美しさがあり、食材にも恵まれています。学生の皆さん、この新潟の地で人生の基礎作りを楽しんで下さい。



## 新潟大学を退任するにあたり

医歯学系(医学部保健学科)  
教授

高橋 由明  
TAKAHASHI Yoshiaki

私は昭和53年に医学部第一生化学教室の助手に就任、保健学科の設置に伴い平成12年から保健学科に移り、大学院を含めると40年間新潟大学にお世話になりました。この間、多くの教職員の方々から様々なご支援をいただき感謝致しております。毎年新たな学生と交流が出来、その時々の方々の考え方や流行を教えてくださいましたのは何物にもまさる宝物です。社会に出ると難局に遭遇

しますが、絶えず感性を研ぎ澄まし、全てに意識を高く持ちながら学習していくことで乗り切れると信じております。新潟大学出身であることに自覚と誇りを持ち、社会でご活躍されることを願っております。長い間ありがとうございました。新潟大学の益々のご発展を祈念いたします。



## 退職に際して

医歯学系(医学部保健学科)  
教授

仲澤 幹雄  
NAKAZAWA Mikio

昭和56年5月から医学部薬理学教室に助手として勤務を始めて以来33年間お世話になりました。光陰矢のごとし、あっという間に退職の時期迎えてしまいました。私は、循環器系薬理学を専門分野として循環器系疾患の治療方法を主に動物実験で研究してきました。人の疾病の治療方法開発に動物実験は必須だと考えて、しかし命の尊さを心において実験してきましたが、皆さんはどのようにお考えでしょう。

年を重ねると幼い頃のような好奇心が薄れてきがちですが、新しい事を切り開いていくためには好奇心を常にもっている必要があります。日本は理系文系を問わず知的立国でしか生きていけない国だと思いますので、好奇心をもち続けて新しい事にチャレンジしていただきたいと思っております。



## 退任に際しての所感

災害・復興科学研究所  
教授

丸井 英明  
MARUI Hideaki

平成元年7月にウイーンより本学に赴任し、以来四半世紀が瞬く間に過ぎ、退任の時を迎えました。学部所属ではなく研究所担当であるために、学生諸君との関わりは限定的ではありましたが、理工農各学部の卒論生や、留学生、社会人学生の多様な方々と共に過ごせた時間は貴重であったと思返しています。災害科学を専門としているため、大きな災害が発生すれば緊急調

査のため現地に急行することが重要な仕事でした。今年は、新潟地震50年、焼山噴火40年、新潟豪雨10年、中越地震10年の節目の年です。今後も自然災害の発生は不可避ですが、災害への備えを心懸けることで、被害を軽減することは可能です。学生諸君の御活躍を祈念致します。



## 新潟大学を退任するにあたって、 学生へのメッセージ

企画戦略本部 国際戦略企画室国際センター  
教授

阿波村 稔  
AWAMURA Minoru

2002年4月に30年の銀行勤務を終え新潟大学に赴任以来、留学生に日々接する一方で実務経験を生かし、Gコード科目では、「留学生と新潟の国際化」、「異文化を考える」、そして実践的なビジネス文書を留学生とともに作り上げる「留学生と学ぶ日本の企業文化」を出講して大変楽しい時を過ごさせていただきました。また、平成24年度には、学長以下理事メンバーと学内が一丸となって教育の国際化をめざして文部科学省「グローバル

人材育成推進事業」の採択を果たし、国際水準をめざす専門教育、コミュニケーションツールとしての英語教育、留学の促進、そして国際教養教育の充実に着手することができました。皆さんには、是非、この事業で行われる得難いチャンスを活用し、それぞれの「自分にしかない自分なりの国際人材」を目指して日々の活動・学習にいそまれ、これからの人生を悔いなきものにされることを切に望んでおります。



# Memorial Photo Collection

長いようで短かったキャンパスライフ。その思い出のカケラたちを、ほんの少しだけ紹介します。

期待と不安でいっぱいだったあの頃



いつの年も、お祭りは準備から騒ぎ合った



“社会”や“就職”を意識すると、気持ちも引き締まった



私たちの成長と共に、大学にもいろんな変化が起きた

図書館の全面改装

ドクターヘリの導入

朱鷺の放鳥

いつもの仲間といつもの風景も、大切な思い出

流した汗と涙の数は、人生の財産になる



広く穏やかなキャンパスにはいろんな季節

の移ろいがあった





## 卒業生と在學生をつなぐ

新潟大学キャリアセンター



社会の先輩としてのアドバイスを学生にお聞かせ下さい!

『CANシステム』は、在學生が卒業生に就職活動の相談ができ、また卒業生の方からも在學生へ社会の現状や、働くことのやりがいなど、生の声を伝えられるシステムです。先輩からのアドバイスは、厳しい雇用環境の中で不安な気持ちで就職活動に取り組む後輩たちには、心強い支援になります。

※お互いの個人情報(氏名・メールアドレス等)を公開せずに安心してご利用いただけます。

**卒業生の皆さん、本システムの趣旨をご理解いただき、ぜひご登録をお願いします!**

### ご登録方法

登録はとてもカンタン!  
個人情報は公開されません。



<http://www.career-center.niigata-u.ac.jp/jobnetwork/>

#### STEP 1 協力依頼・利用規約同意画面

新規登録から利用規約同意画面へ。

#### STEP 2 入力画面

フォームに必要事項を入力。  
公開可能な項目は、任意で選択可能。



#### STEP 3 確認画面

入力情報を確認後、「送信する」ボタンをクリック。

#### STEP 4 登録完了

ご指定のメールアドレスに確認メールが届き、登録完了。  
※キャリアセンターにてご登録内容を確認させていただきますので、登録完了・公開までに数日かかる場合があります。

質問・相談メールをお待ちください。



ご不明な点はキャリアセンターまで  
お問い合わせ下さい

新潟大学 教育・学生支援機構キャリアセンター  
〒950-2181 新潟市西区五十嵐2の町8050番地  
TEL:025-262-6087  
E-mail:niigata.cc-obog@adm.niigata-u.ac.jp  
URL:<http://www.career-center.niigata-u.ac.jp/>

### ご登録後の流れ

学生からの質問・相談メールに、  
システムを通じて返答します。

#### 活用具体例

- 会社・仕事・職種についての具体的な質問
- キャリア形成に関する質問やアドバイス



## 卒業生と大学をつなぐ

### 卒業後も大学図書館を利用できます!

新潟大学附属図書館は、地域社会に開かれた大学図書館として、卒業生・一般市民の皆さんにもご利用いただけます!



#### 利用できるサービス

- 1 館内に配架されている図書や雑誌の閲覧
- 2 中央図書館・医歯学図書館共通の図書館  
利用カードの発行  
5冊14日以内。新潟大学カード会員なら  
10冊14日以内の貸出のほか、文献複写  
サービスも試行中です。
- 3 図書の貸出
- 4 館内資料の複写
- 5 資料の検索、調査方法の相談 など



※その他詳細については、下記問合せ先でご確認ください。

### 中央図書館は、平成25年4月にリニューアルオープンしました!

1階の「インフォメーションラウンジ」は、学生・卒業生・地域住民・教職員の皆さんが気軽に立ち寄り、交流できる場所となっています。学内の教育研究活動のポスター展示も随時開催しています。また、講演会なども行われる「ライブラリーホール」が新設され、明るく開放的な空間となっています。ぜひ、卒業後も大学図書館にお気軽にお立ち寄りください!



【新潟大学附属図書館HP】<http://www.lib.niigata-u.ac.jp/>

【五十嵐地区】新潟大学附属図書館 中央図書館 TEL:025-262-6221 E-mail:etsu@lib.niigata-u.ac.jp

【旭町地区】新潟大学附属図書館 医歯学図書館 TEL:025-227-0694 E-mail:b-serv@lib.niigata-u.ac.jp

## 新潟大学 卒業/修了生向けメールサービス

卒業/修了後も  
大学のメールを利用できます!

卒業/修了すると在學時に利用していたメールアドレス  
(在籍番号@mail.cc.niigata-u.ac.jp)が使えなくなります\*

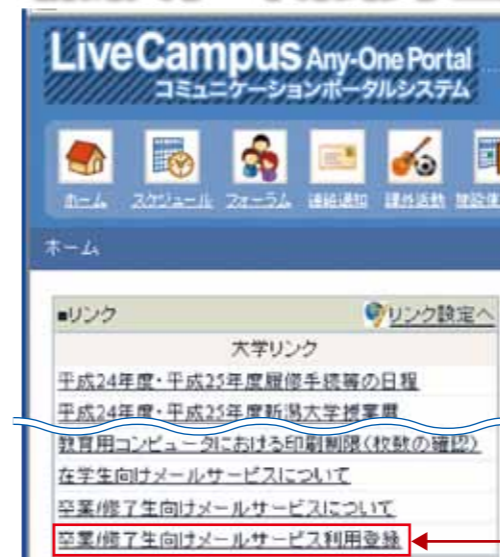
**「卒業/修了生用メールアドレス」を取得すると  
卒業/修了してもずっと使えます。**

【卒業/修了生用アドレス】在籍番号@[alumni.niigata-u.ac.jp](mailto:alumni.niigata-u.ac.jp)  
↑アカウントの一部が変わります

#### 利用・登録方法

卒業/修了が決まったら、学務情報システムポータル大学のリンクから  
**卒業/修了生向けメールサービス利用登録へアクセス**  
→登録後、新しいアドレスが発行されます。

\*3月中旬から3月末までに在學生用アドレスに届いたメールは、卒業/修了生用アドレスに転送されます。







# 新潟大学全学同窓会



## 全学同窓会 多和田孝雄会長インタビュー

伝統ある各学部同窓会の枠を超えて連携・協力を図るため、平成18年に全学同窓会は設立されました。平成24年に第三代の会長に就任された多和田孝雄さんに全学同窓会の活動について伺いました。

### 全学同窓会の理念や目標について

「新潟大学の発展と社会への貢献に資するとともに、会員相互の交流と連携及び親睦を図る」という目標があります。加えて、全学同窓会が会員サービスを充実しつつ、新潟大学をサポートする最強の応援団となるために、私は「会員一人ひとりと心の繋がる同窓会づくり」、「会員にメリットのある同窓会づくり」、「新潟大学を支援できる同窓会づくり」の3つをスローガンに掲げております。

### 全学同窓会の活動や事業について

学生さんに直接関係のある事業としては、

「雪華支援事業」が挙げられます。部・サークル活動を含む全学的な学生活動の支援を行っています。これとは別に、平成24年度は運動部等が利用する筋トレ設備を更新するための寄付をしました。

また、卒業生の希望者には入会費・年会費無料のゴールドクレジットカード「新潟大学カード」も発行しています。

### 学生、卒業生に一言お願いいたします。

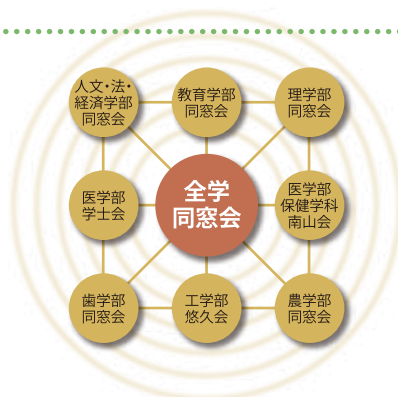
母校が全国有数の誇らしい大学となるためには、教職員や学生諸君の活躍もさることながら、卒業生の社会での活躍も大事です。また、卒業生一人ひとりからの小さな支援が全学同窓会を通じて大きな力となり、母校を支えることにつながります。

ぜひ卒業後は、全国にいる13万人の卒業生の仲間になって下さい。

【新潟大学全学同窓会HP】<http://www.niigata-u.ac.jp/dousoukai/index.html>

【新潟大学全学同窓会事務局】TEL:025-262-7891 (受付時間 平日10:00~15:00)

FAX:025-262-7892 E-mail:dosojimu@adm.niigata-u.ac.jp



## 「新潟大学基金」ぜひご協力ください

「新潟大学基金」は、皆様からのご寄附を基に、学生の修学支援や、国際交流活動など、魅力ある大学づくりのために活用しています。具体的には、以下のような事業を支援しています。

- 輝け未来!! 新潟大学入学応援奨学金への支援
- 体育館に最新のウェイトトレーニング機器導入の支援
- 陸上競技部トレーニング室設置の支援
- 附属図書館の設備整備の支援
- 第一食堂前学生広場のベンチ整備の支援

この他にも各種事業への支援を行っています。

これらの事業を継続的に進めていくためにも、皆様のご理解とご支援をお願いします。なお、ご寄附をいただいた場合、税法上の優遇措置が受けられるほか、本学独自の特典も用意しております。詳しくは、「新潟大学基金ホームページ」をご覧ください。

【新潟大学基金HP】<http://www.niigata-u.ac.jp/kikin/index.html>

【お問い合わせ先】新大サポーター連携推進室 TEL:025-262-5651・6010 (受付時間 平日9:00~17:00)

FAX:025-262-7796 E-mail:kikinjimu@adm.niigata-u.ac.jp

学長と奨学金受給者との懇談会



### 【奨学金受給者からの声】

奨学金の受給が決まったとき、入学試験に合格したときと同じくらい嬉しく、母と手を取り喜び合った。この奨学金のおかげで大学に進学することができたので、これまで支えてくれたたくさんの人に恩返りできるように頑張りたい。



第一体育館 筋力トレーニング機器

【新大広報 Back Number】[http://www.niigata-u.ac.jp/profile/1/100\\_pamph/shindai\\_kouhou.html](http://www.niigata-u.ac.jp/profile/1/100_pamph/shindai_kouhou.html)

新大広報のバックナンバーは上記のURLから閲覧することができます。また、学務部学生支援課で受け取ることもできます。

2014年卒業記念号 [No.190]



<http://www.niigata-u.ac.jp/>

編集・発行 / 新潟大学学務部・新潟大学広報室 印刷 / 株第一印刷所

